

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2017年3月5日(日)

主 題：「召されて受ける祝福を知っていますか」

一神の子とされた特権一

テキスト：へブル人への手紙5章1～4節

はじめに

{例 話}

- ・なにげなしに語られた、他人の「一言」に心を刺されたことはありませんか？ 人間というものは、強いようで弱いものです。私は次のような話を聞いたことがあります。
- ・これは英国・ロンドンで実際にあった話だそうです。  
もうひと昔前でしたが、一人の男が銀行強盗を働きました。当時にしてはかなりの大金を奪い、彼は英国を脱出し米国へ逃亡しました。それから数十年という年月が経過し、もう誰もあの銀行強盗事件を忘れていました。
- ・事件はやがて英国で時効になり、彼は米国から再びロンドンへ戻りました。そしてロンドンのメイン道路を歩いていました。すると警察官が笛を吹きなら、「泥棒だ！ あいつは泥棒だ！」と叫びながら追いかけて走る姿を見ました・・・。
- ・彼はその時、一瞬「ハッと」しました。警察官の「一言」が彼の心にグサリと入り込みました。彼の犯した事件はすでに何十年も月日が経過し、もう時効になっていました。しかし彼はその後、警察署へ自首したそうです。
- ・そうです！！ 人の心には良心があります。神は私たちに良心を与えてくださいました。悪を行えばどんな悪人でも、心は痛むはずです。他人の「一言」が、人の心を刺すことがあります。
- ・であるならば、神の言葉（聖書のみ言葉）は、両刃の剣よりも鋭く、私たちの心深くにある思いをも暴露する力を持っています。へブル人への手紙の著者は言いました。 [へブル人への手紙4：12](#)  
「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、魂と霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」
- ・全知全能の神の前には、隠せるものは何ひとつありません。  
私たちがごまかしていけると思う心も、神の前には打ち砕かれます。聖書は、人はいつの日か神の前に立ち、善であれ悪であれ、裁きを受けると語っています。

- ・しかしそこには、私たちを助けてくれる弁護人として、大祭司イエスがいてくださると教えています。イエスが十字架上で流された御血は、私のためであったと信じる者は、罪が許されていると弁護してくださいます。なんとという幸いではありませんか。今日も、私たちはそのイエス・キリストについて学びたく思います。2点

## 大切なポイント

### 1. 大祭司の資格

- ・神の前に出る大祭司には、次の4つの条件が必要でした。

#### 1) 大祭司は「人」でなければならない

5:1 大祭司はみな、人々の中から選ばれ、神に仕える事がらについて人々に代わる者として、任命を受けたのです。それは、罪のために、ささげ物といけにえとをささげるためです。

- ・大祭司は人でなければなりません。具体的には、アロンの子孫の中から選ばれました。イエス・キリストもまた人となりました。

#### 2) 大祭司は祭司階級に属する者でなければならない

5:1 大祭司はみな、人々の中から選ばれ、神に仕える事がらについて人々に代わる者として、任命を受けたのです。それは、罪のために、ささげ物といけにえとをささげるためです。

- ・大祭司は祭司級に属している者でなければなりませんでした。大祭司の任務は、罪人のために、ささげ物といけにえを捧げることになりました。アロンは自分の為にも、罪のためのささげ物が必要でした。しかしイエス・キリストは罪を犯したことがなかったため、そうする必要はありませんでした。

#### 3) 大祭司の務めは「人々を思いやる」こと

5:2 彼は、自分自身も弱さを身にまとっているのに、無知な迷っている人々を思いやることができるのです。

5:3 そしてまた、その弱さのゆえに、民のためだけでなく、自分のためにも、罪のためのささげ物をしなければなりません。

- ・大祭司の務めは、同じ人間としての弱さに基づいて「人々を思いやる」ことでした。イエスもまた、すべての面で試みに会われたので、罪人の弱さを思いやることができました。

#### 4) 大祭司は、神の任命を受け、神から選ばれた

5:4 まただれでも、この名誉は自分で得るのではなく、アロンのように神に召されて受けるのです。

- ・このように大祭司は、神の任命を受けて神から選ばれました。ところで私たちの大祭司であるイエス・キリストは、どんな歩みをされた方出会ったでしょうか。それは父なる神に向かい、いつも祈りを捧げられたことです。

## 2. イエス・キリストはよく祈られた

### 1) イエスの祈り

- ・イエス・キリストは、人間の姿を撮ってこの世におられた間、父である神に涙を流して祈られました。父である神の前で恐れかしこむことによつて、キリストの祈りは聞かれました。

「しかし、イエスご自身は、よく荒野に退いて祈っておられた。」

ルカ 5 : 16

- ・イエスの祈りは父である神との交わりでした。生まれながら神の御子である方ですから、改めて祈る必要はなかったでしょう。神の御心は分かっておられたはずですが、しかしイエスはよく祈られました。
- ・私たちもよく「神の御心は分かっています。」と思いやすいです。しかし、分かっているはずの私たちが、失敗してしてしまうのは、じつは本当に分かっているからではないのでしょうか。イエス・キリストはよく祈られました。それは、一々、父なる神の御心を求めたということです。

- ・イエスがよく祈られたことは、福音書に多く記されています。

#### (1) イエスのバプテスマ時

ルカの福音書

3:21 さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお受けになり、そして祈っておられると、天が開け、

3:22 聖霊が、鳩のような形をして、自分の上に下られるのをご覧になった。また、天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」

#### (2) 12使徒を選ばれた時 ルカ福音書

6:12 このころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。

6:13 夜明けになって、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び、彼らに使徒という名をつけられた。

イエスは徹夜の祈りを捧げられました。

#### (3) 変貌山での時 ルカの福音書

9:28 これらの教えがあつてから八日ほどして、イエスは、ペテロとヨハネとヤコブとを連れて、祈るために、山に登られた。

9:29 祈っておられると、御顔の様子が変わり、御衣は白く光り輝いた。

#### (4) 主の祈りを教えられた時 ルカの福音書

11:1 さて、イエスはある所で祈っておられた。その祈りが終わると、弟子のひとりが、イエスに言った。「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」

11:2 そこでイエスは、彼らに言われた。「祈るときには、こう言いなさい。『父よ。御名があがめられますように。御国が来ますように。』」

11:3 私たちの日ごとの糧を毎日お与えください。

11:4 私たちの罪をお赦してください。私たちも私たちに負いめのある者をみな赦します。私たちを試みに会わせないでください。』」

イエスが「主の祈り」を教えられた時も、主イエスが祈っておられる姿を見て、弟子に一人はどのように祈ったらよいかにか教えを願いました。

#### (5) 十字架上で祈られた ルカの福音書

23:34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦ください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」

- ・イエスは十字架上でも、父なる神に祈られました。
- ・このようにイエスは、よく祈っておられました。ルカの福音書

5:16 しかし、イエスご自身は、よく荒野に退いて祈っておられた。

## 2) 主イエスの祈りの内容

### ヘブル人への手紙 5：7（読む）

5:7 キリストは、人としてこの世におられたとき、自分を死から救うことのできる方に向かって、大きな叫び声と涙とをもって祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられました。

- ・この聖句はゲッセマネの園での祈りではないかと、思われるかもしれませんが。しかしこの原文は「ご自分の肉の日々」となっています。つまり、地上生活のある特定の日ことではなく、地上生活をしておられた間中ということなのです。
- ・ですから主イエスの祈りは、ゲッセマネの園の祈りだけでなく、いつも涙を流して叫び続けておられたのです。この文脈からすれば、主イエスは大祭司として、私たちのために執りなしをしてくださったのです。
- ・いったい、どこの誰がこの私のために、父なる神に向かって叫び涙を流しながら、祈ってくださるのでしょうか・・・？ そればかりではありません。地上生活の時だけではなく、今も天に置いて私たちのために、同じように執りなしをしてくださっているのです。私たちはただ感謝を捧げるのみです。

## 『例 話』

- ・先週、私は沖縄宣教に行きました。それは主の恵みでした。沖縄本島に本部（もとぶ）町に『やんばる』（原生林の森）があります。その山中に「さくら庵」という薬膳料理専門レストランあります。そこでは実に手の凝った料理が提供されていました。オーナーの上原るり子さんとお話しする機会があり、彼女の信仰の証を聞きました。
- ・彼女が信仰に入ったのは、わずか3年前。それまでも彼女は信心深く、沖縄の偶像「火の神」に、毎朝「水」と「お花」を添えていました。毎月1日、15日には欠かさず、それに焼香をたき拝んでいました。それを長年も不思議に思わず続けていたのです。
- ・ある時、ご主人が「今日は、線香をたかないの？」と言いました。  
（彼女は忘れていた）しかしその一言が、彼女の心にグサッと入りました。優しいご主人が声をかけたのですが、それはご主人に大きなストレスを与えていたことを感じたのです。
- ・そこで何の効果もない虚しい偶像礼拝に、はまり込んでいた自分が哀れに思えました。彼女は友人クリスチャンを通し、牧師に来てもらい、聖別の祈りをし偶像礼拝から離れました。その聖別の祈りがなされた時、彼女の目から涙だが止めどなく流れ落ちてきました。そして自分の罪がイエスの御血によって、洗われていくこと覚えました。
- ・彼女は今、クリスチャンとして健康に留意し、薬膳料理一筋に励んでおられます。毎朝、1500坪の敷地の自分の山上に登り、大祭司イエスを通して、感謝と祈りを捧げることが日課となっていると言われました。私はとても励まされました。
- ・罪赦された者が、父なる神の前に出ることが出来ることは特権です。それは大祭司イエスによって、実現する者です。

## ま と め

主 題：「召されて受ける祝福を知っていますか」

一神の子とされた特権一

- ・ヘブル人への手紙の著者は、神の恵みによって救われ、永遠の神の御国が約束された聖徒の特権について、述べました。私たちは肉のヘブル人ではありません。しかし主イエス・キリストにあって、今は霊の家族であるヘブル人です。そして永遠の神の御国が約束された聖徒です。感謝。
- ・私たちは今日、神に向かいどのような応答をするものでしょうか？  
大切なこと、2点学びました。
  - 1、イエスに習う者となる
  - 2、父なる神へ感謝と賛美をお捧げする者

\* God bless you!